

ると、65歳以上の高齢者が20歳以上65歳未満の人より住宅内の事故発生の割合が高い。事故の発生場所は、「居室」が45.0%と最も多く、「階段」18.7%、「台所・食堂」17.0%と続いている（図1-2-6-2）。

(2) 高齢者の居住環境

60歳以上の高齢者が、外出時の障害と感じていることをみると、「特にない」が44.5%であるが、障害と感じている事柄は、「道路に階段、段差、傾斜があったり、歩道が狭い」が15.2%と最も多く、「ベンチや椅子等休める場所が少ない」（13.7%）、「バスや電車等公共の交通機関が利用しにくい」（13.4%）と続いている（図1-2-6-3）。

(3) 高齢者の安全・安心

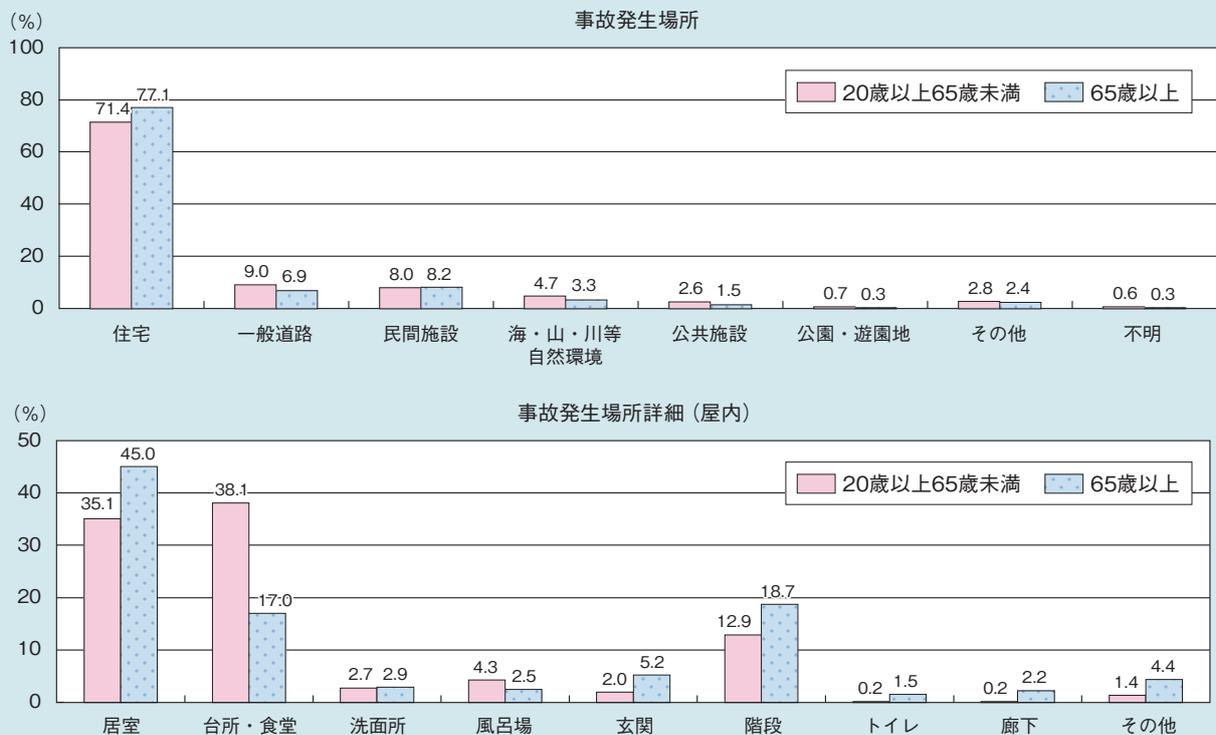
ア 交通事故死者数に占める高齢者の割合は5割を超える

平成27（2015）年中における65歳以上の高齢者の交通事故死者数は、2,247人で、前年より54人増加し、交通事故死者数全体に占める高齢者の割合は54.6%となった（図1-2-6-4）。

イ 高齢者の刑法犯罪被害認知件数に占める割合は増加傾向

犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、刑法犯罪被害者認知件数でみると、全刑法犯罪被害者認知件数が戦後最多を記録した平成14（2002）年に22万5,095件となり、ピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあるが、高齢者が占める割合は、26（2014）年は

図1-2-6-2 高齢者の家庭内事故



資料：国民生活センター「医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故—高齢者編—」（平成25年3月公表）

（注1）平成22（2010）年12月～平成24（2012）年12月末までの伝送分。

（注2）事故発生場所詳細（屋内）については、不明・無回答を除く。